パン2枚の食事 それでも下げる!?

生活保護 改善こそ

削減反対 署名訴え

生存権裁判を支援する

東京・大田

る全国連絡会（会長・井上英夫金沢大学教授）は25日、「ストップ生活保護引き下げ」を訴えて宣伝・署名行動を東京都大田区のJR蒲田駅前で行いました。大田生活と健康を守る会、全労連、中央社保協、新日本婦人の会などから26人が参加しました。

ビラを受け取り対話になった若者は「生存権、憲法25条は大事」と話して署名に応じました。

福島からの避難者は署名をしながら、「パン2枚の食事など生活保護世帯の状況をテレビで見た。これ以上、下げられたら大変」と語りました。

参加した武政良久さんは「大田区の生活保護利用者は1万3042世帯、人口1000人に対して24人になります。これでも生活保護基準未満の収入世帯のうち、1割程度しか利用できていない。イギリスでは受給資格者の9割が受けている」と訴えました。

全労連・常任幹事の岩橋祐治さんは「地域別最低賃金法が改正され、生活保護基準と整合性をもつことになり、最賃が引き下げられる危険性がある」と国民生活と生活保護基準の関わりを訴えました。

新婦人の児玉紀子さんは「埼玉県三郷市で生活保護を何回も断られ裁判に訴えた人の裁判で勝利判決が出た。人権侵害が起きないよう生活保護を改善していこう」と結びました。

3月22日には秋田生存権裁判の判決が秋田地裁で出されます。